

# 令和5年 救助統計

とかち広域消防事務組合

## 凡 例

- 1 本書は、令和5年中に発生した救助事故全般について、救急事故等報告要領に基づいて算出したものを統計資料としてまとめたものです。
- 2 数字の単位未満は四捨五入しているため、総数と内訳が一致しない場合があります。
- 3 表中で使用した符号は下記のとおりです。
  - 「-」・・・該当数字又は集計値のないもの
  - 「※」・・・注釈
  - 「▲」・・・マイナス表示

## 目 次

1 救助活動の範囲	1 ページ
2 救助活動状況の概要	1～2 ページ
3 事故種別ごとの救助出動状況等	2～5 ページ
4 救助出動人員及び救助活動人員	6 ページ
5 救助出動車両	7 ページ
別表 十勝管内消防署別救助出動件数と救助活動件数	8 ページ

## 1 救助活動の範囲

救助活動は、次のいずれにも該当する火災、災害又は事故により発生したものです。

- (1) 要救助者の存在が予想され、その生命又は身体に現実の危険が及んでいるものであること。
- (2) 緊急に被害者を人力、機械力、器具等を用いて安全な場所に救出する必要があるものであること。
- (3) 消防機関が行ったものであること。ただし、直接人命救助を伴わない警戒活動・危険物排除活動等及び死体捜索は対象から除外する。

※ 「火災」の場合における「救助出動件数」は、出動件数そのものではなく、出動して実際に救助活動を実施した場合のみ救助出動件数として計上しています。この場合、救助出動件数と救助活動件数は同数です。また、火災時に救助隊員の誘導に従って自力で脱出した者の数は「救助人員」には含まれていません。

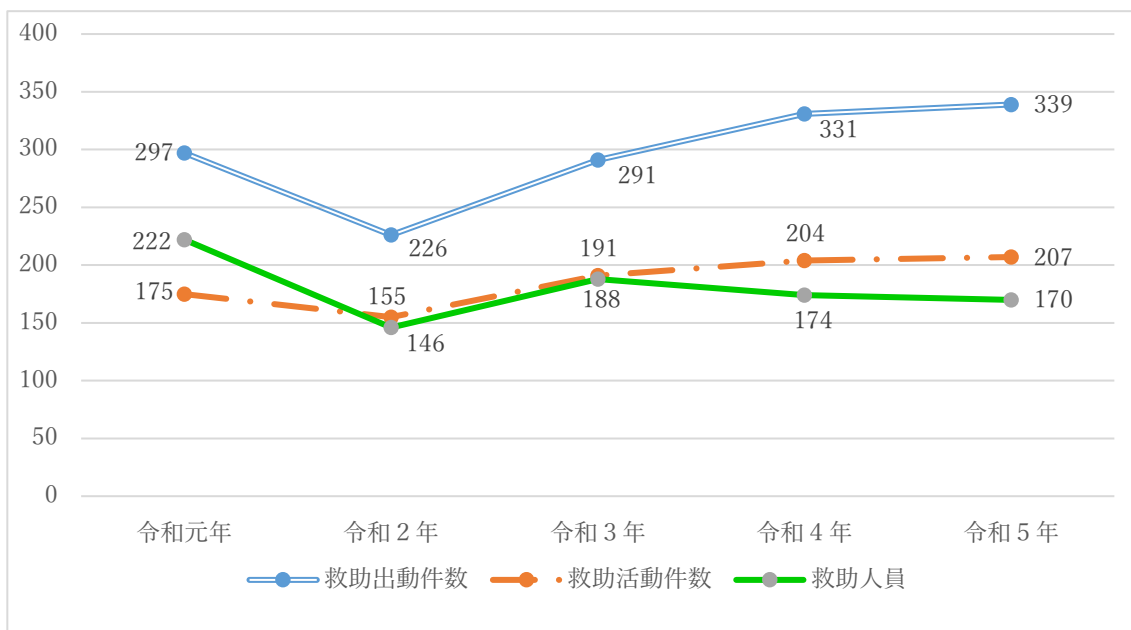
## 2 救助活動状況の概要

令和5年中における十勝の救助活動状況は、救助出動件数 339 件（対前年比 8 件増、2.4%増）、救助活動件数 207 件（対前年比 3 件増、1.5%増）、救助人員 170 人（対前年比 4 人減、2.3%減）であり、前年と比較して救助出動件数及び救助活動件数が増加している一方で、救助人員は減少しています。（表 1、図 1 参照）

表 1 救助出動・救助活動件数及び救助人員の推移

区分 年	救助出動件数			救助活動件数			救助人員		
	件数	対前年比		件数	対前年比		人員	対前年比	
		件数	増減率(%)		件数	増減率(%)		件数	増減率(%)
令和元年	297	48	19.3	175	15	9.4	222	84	60.9
令和2年	226	▲71	▲23.9	155	▲20	▲11.4	146	▲76	▲34.2
令和3年	291	65	28.8	191	36	23.2	188	42	28.8
令和4年	331	40	13.7	204	13	6.8	174	▲14	▲7.4
令和5年	339	8	2.4	207	3	1.5	170	▲4	▲2.3

図1 救助出動・救助活動件数及び救助人員の推移



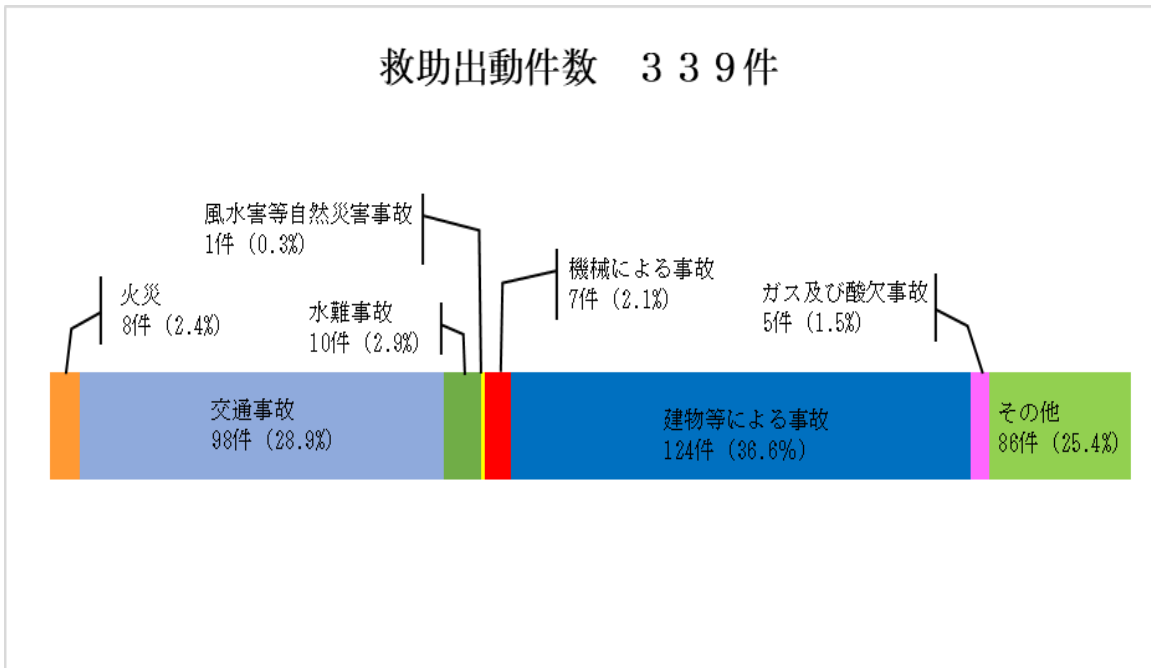
### 3 事故種別ごとの救助出動状況等

救助出動件数を事故種別ごとにみると、「水難事故」が10件（対前年比1件増、11.1%増）、「風水害等自然災害事故」が1件（対前年比1件増）、「建物等による事故」が124件（対前年比27件増、27.8%増）、「ガス及び酸欠事故」が5件（対前年比2件増、66.7%増）と前年から増加している一方で、「交通事故」が98件（対前年比8件減、7.5%減）、「機械による事故」が7件（対前年比7件減、50.0%減）、「その他」が86件（対前年比8件減、8.5%減）と減少しています。（表2、図2参照）

表2 事故種別ごとの救助出動件数対前年比

事故種別	令和5年		令和4年		対前年比	
	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)	件数	増減率(%)
火災	8	2.4	8	2.4	0	0.0
交通事故	98	28.9	106	32.0	▲8	▲7.5
水難事故	10	2.9	9	2.7	1	11.1
風水害等自然災害事故	1	0.3	0	0.0	1	-
機械による事故	7	2.1	14	4.2	▲7	▲50.0
建物等による事故	124	36.6	97	29.3	27	27.8
ガス及び酸欠事故	5	1.5	3	0.9	2	66.7
破裂事故	0	0.0	0	0.0	0	-
その他	86	25.4	94	28.4	▲8	▲8.5
合計	339	100.0	331	100.0	8	2.4

図2 救助出動件数



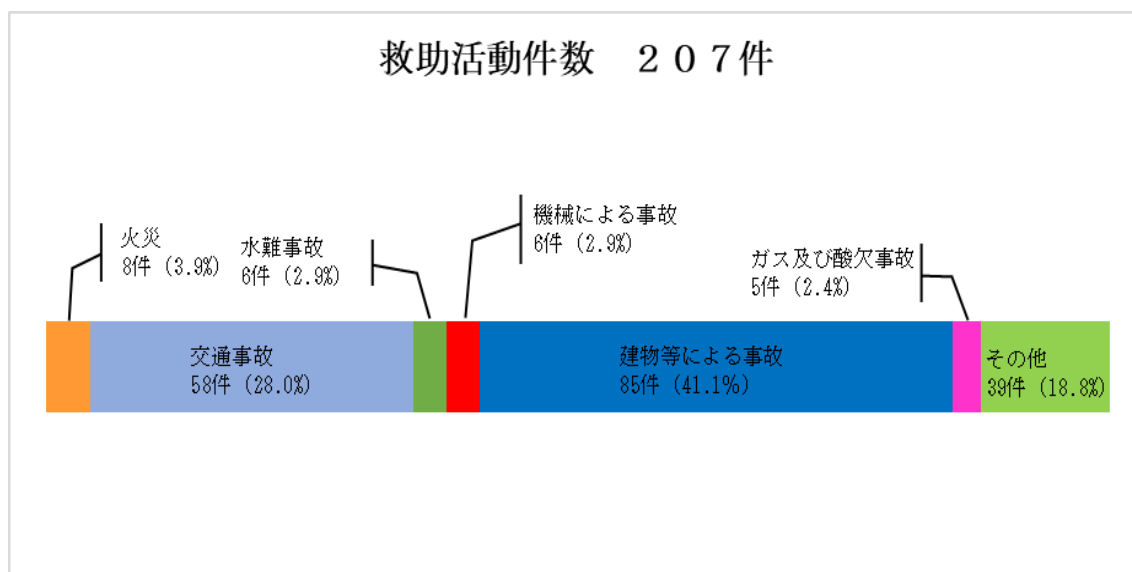
- ※ 1 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計が100%にならない場合があります。
- 2 事故種別は、次により区分しています。
- (1) 「火災」とは、火災現場において、直接火災に起因して生じた事故。
  - (2) 「交通事故」とは、すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故。
  - (3) 「水難事故」とは、水泳中の溺者又は水中転落等による事故。
  - (4) 「風水害等自然災害事故」とは、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、雪崩、地すべりその他の異常な自然現象に起因する災害事故。
  - (5) 「機械による事故」とは、エレベーター、プレス機械、ベルトコンベアーその他の建設機械、工作機械等による事故。
  - (6) 「建物等による事故」とは、建物、門、柵、へい等の建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故等。
  - (7) 「ガス及び酸欠事故」とは、一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故、酸素欠乏による事故等。
  - (8) 「破裂事故」とは、直接火災に起因して生じた事故以外のボイラー、ポンプ等の物理的破裂による事故をいう。
  - (9) 「その他」とは、前記に掲げる事故等（(1)～(8)）以外の事故等で、消防機関による救助を必要とした事故。

救助活動件数を事故種別ごとにみると、「建物等による事故」が 85 件と活動件数全体の 41.1%を占め、最多の事故種別となっています。「水難事故」「機械による事故」「その他」が減少する一方で、「交通事故」「建物等による事故」「ガス及び酸欠事故」は増加しています。(表 3、図 3 参照)

**表 3 事故種別ごとの救助活動件数対前年比**

事故種別	令和 5 年		令和 4 年		対前年比	
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	増減率 (%)
火災	8	3.9	8	3.9	0	0.0
交通事故	58	28.0	56	27.5	2	3.6
水難事故	6	2.9	8	3.9	▲ 2	▲ 25.0
風水害等自然災害事故	0	0.0	0	0.0	0	-
機械による事故	6	2.9	8	3.9	▲ 2	▲ 25.0
建物等による事故	85	41.1	75	36.8	10	13.3
ガス及び酸欠事故	5	2.4	2	1.0	3	150.0
破裂事故	0	0.0	0	0.0	0	-
その他	39	18.8	47	23.0	▲ 8	▲ 17.0
合計	207	100.0	204	100.0	3	1.5

**図 3 救助活動件数**



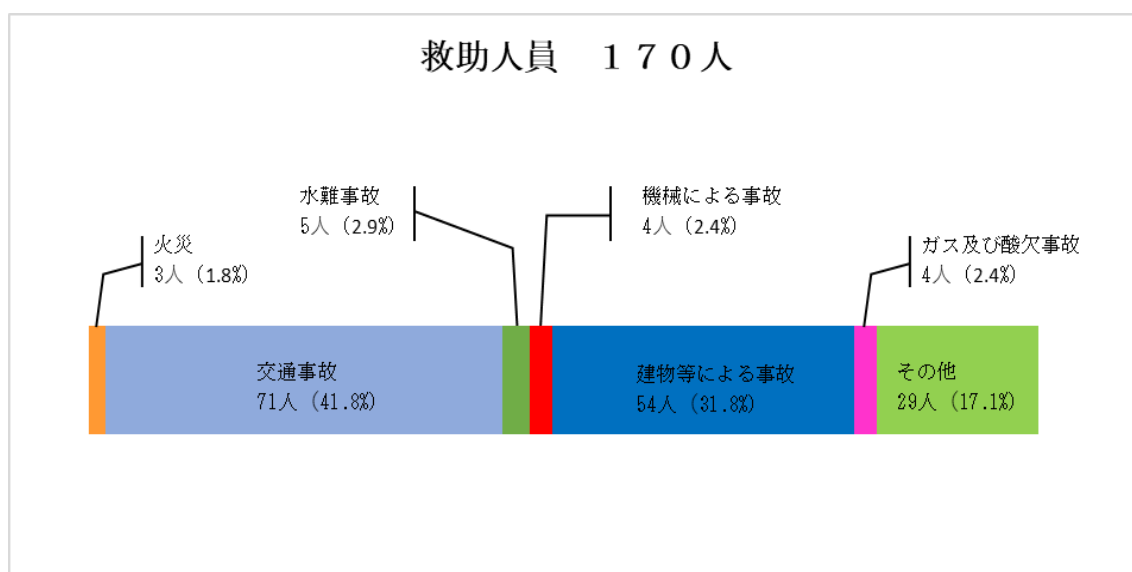
救助人員を事故種別ごとにみると、「交通事故」が71人（対前年比14人増、24.6%増）、  
「建物等による事故」が54人（対前年比2人減、3.6%減）となっています。

事故種別ごとの救助人員の構成比の推移をみると、「火災」「水難事故」「機械による事故」  
「建物等による事故」「その他」が減少している一方で、「交通事故」「ガス及び酸欠事故」  
が増加しています。（表4、図4参照）

**表4 事故種別ごとの救助人員対前年比**

事故種別	令和5年		令和4年		対前年比	
	救助人員	構成比 (%)	救助人員	構成比 (%)	救助人員	増減率 (%)
火災	3	1.8	4	2.3	▲1	▲25.0
交通事故	71	41.8	57	32.8	14	24.6
水難事故	5	2.9	12	6.9	▲7	▲58.3
風水害等自然災害事故	0	0.0	0	0.0	0	-
機械による事故	4	2.4	8	4.6	▲4	▲50.0
建物等による事故	54	31.8	56	32.2	▲2	▲3.6
ガス及び酸欠事故	4	2.4	0	0.0	4	-
破裂事故	0	0.0	0	0.0	0	-
その他	29	17.1	37	21.3	▲8	▲21.6
合計	170	100.0	174	100.0	▲4	▲2.3

**図4 救助人員（救助活動により救助した人員）**



## 4 救助出動人員及び救助活動人員

救助出動人員の合計は 4,283 人であり、事故種別ごとの出動人員を多い順にみると「建物等による事故」が 1,449 人 (33.8%)、「交通事故」が 1,173 人 (27.4%) となっています。

救助活動人員の合計は 1,325 人であり、事故種別ごとの活動人員を多い順にみると「建物等による事故」が 473 人 (35.7%)、「交通事故」が 456 人 (34.4%) となっています。

(表 5 参照)

表 5 救助出動人員及び救助活動人員

事故種別 区分		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害 事故	機械によ る事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他	合計
救助 出動 人員	令和 5 年	307 7.2%	1,173 27.4%	146 3.4%	16 0.4%	97 2.3%	1,449 33.8%	62 1.4%	0 0.0%	1,033 24.1%	4,283 100.0%
	令和 4 年	288 7.0%	1,217 29.7%	171 4.2%	0 0.0%	137 3.3%	1,201 29.3%	76 1.9%	0 0.0%	1,013 24.7%	4,103 100.0%
	増減	19	▲ 44	▲ 25	16	▲ 40	248	▲ 14	0	20	180
救助 活動 人員	令和 5 年	53 4.0%	456 34.4%	38 2.9%	0 0.0%	56 4.2%	473 35.7%	26 2.0%	0 0.0%	223 16.8%	1,325 100.0%
	令和 4 年	53 4.4%	356 29.4%	93 7.7%	0 0.0%	60 5.0%	408 33.7%	10 0.8%	0 0.0%	231 19.1%	1,211 100.0%
	増減	0	100	▲ 55	0	▲ 4	65	16	0	▲ 8	114

※ 表 2 注釈参照



## 5 救助出動車両

救助出動した車両の延べ台数は 1,198 台であり、救急自動車 370 台、消防ポンプ自動車 239 台、救助工作車 221 台となっています。

また、事故種別ごとにみると「建物等による事故」が 399 台、「交通事故」が 339 台となっています。(表 6 参照)

表 6 事故種別ごとの出動車両

事故種別 区分	火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害 事故	機械によ る事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他	(台) 合計
救助工作車	6	63	8	1	4	83	3	0	53	221
消防ポンプ自動車	41	56	8	1	4	72	3	0	54	239
はしご車	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
化学車	8	34	1	0	3	42	1	0	26	115
指揮車・指令車	7	45	9	1	2	71	4	0	53	192
救急自動車	12	135	10	1	9	123	5	0	75	370
その他	5	2	9	0	3	6	0	0	9	34
消防団車両	6	4	6	0	2	2	0	0	6	26
合計	85	339	51	4	27	399	16	0	277	1,198

別表 十勝管内消防署別救助出動件数と救助活動件数

	救助出動件数				救助活動件数			
	令和5年	令和4年	増減	増減率	令和5年	令和4年	増減	増減率
帯広消防署	171	163	8	4.9%	110	105	5	4.8%
音更消防署	30	33	▲3	▲9.1%	20	22	▲2	▲9.1%
士幌消防署	12	6	6	100.0%	5	4	1	25.0%
上士幌消防署	7	7	0	0.0%	5	4	1	25.0%
鹿追消防署	2	2	0	0.0%	1	2	▲1	▲50.0%
新得消防署	10	13	▲3	▲23.1%	8	11	▲3	▲27.3%
清水消防署	16	15	1	6.7%	7	9	▲2	▲22.2%
芽室消防署	16	11	5	45.5%	13	4	9	225.0%
中札内消防署	0	6	▲6	-	0	2	▲2	-
更別消防署	3	4	▲1	▲25.0%	3	3	0	0.0%
大樹消防署	3	12	▲9	▲75.0%	1	10	▲9	▲90.0%
広尾消防署	13	7	6	85.7%	5	3	2	66.7%
幕別消防署	18	22	▲4	▲18.2%	10	10	0	0.0%
池田消防署	9	8	1	12.5%	6	5	1	20.0%
豊頃消防署	5	1	4	400.0%	3	1	2	200.0%
本別消防署	3	7	▲4	▲57.1%	1	3	▲2	▲66.7%
足寄消防署	11	10	1	10.0%	6	4	2	50.0%
陸別消防署	3	2	1	50.0%	3	1	2	200.0%
浦幌消防署	7	2	5	250.0%	0	1	▲1	-
十勝総数	339	331	8	2.4%	207	204	3	1.5%



作成担当

とちぎ広域消防局消防救助課

令和7年2月作成